

帰国者の学習機会を拡げるために「自学自習支援」を考える

平城 真規子

0. はじめに

中国帰国者定着促進センター（以下所沢センター）は、平成12年度国立国語研究所の研究委嘱を受け、「遠隔学習支援」をテーマに調査研究を行った。本報告はその調査研究の一環として取り組んだ「自学自習支援」（以下本プロジェクト）についての報告である。

中国帰国者（以下帰国者）に対する日本語教育では、定着地によって通える距離に教室が無いなど地域格差があることはすでに指摘されてきたところである。また就労中あるいは子育て中の帰国者の場合、教室があっても継続に通うのは難しいといった状況を耳にする。このような空間的・時間的制約の中にいる帰国者にとって選択肢の一つは自学自習である。しかし、市販される教材の中で帰国者の特質や学習条件に配慮した自学自習用教材はまだ多くないように思われる。また「自学自習をどう支援するか」といった点についても検討すべき点が残されているように思う。

本プロジェクトではこれらの問題を踏まえ自学自習支援について考えるにあたって、昨年度来取り組んできた自学自習用教材の試作や学習者支援の試行（平城他/2000）結果なども生かしつつ、次のような活動を行った。

(1) 自学自習用教材についての学習者ニーズの把握

センター修了生中、日本語の学習機会が比較的少ないと思われる定着地の帰国者を対象に、分野別要素別ニーズ及び必要な側面支援（学習相談や学習情報の提供等）について聞く。

(2) 教材モニターからのフィードバック情報収集

定着地の帰国者を対象に試作版自学自習用教材のモニターを募集し、使用後のフィードバックを得ながら次の点について明らかにする。

学習者の学習環境や学習条件

学習者タイプ（滞在歴、年代、日本語レディネス、学習適性等）と自学自習の進め方

1. 「自学自習用教材に関するニーズ調査」

1-1. 調査の概要

(1) 目的

自立研修センター¹のない地域に定着した帰国者の「定着後の日本語学習の実態」および現在の自学自習用教材に関するニーズを知り、今後の教材開発のための参考資料とする。なおニーズ調査回答者には所沢センター開発自学自習用教材について教材モニター募集のお知らせを送付し、モニターからは教材使用後の関連データを採取することとする。

(2) 調査項目

日本語学習歴、日本語レベル自己評価、学習ニーズ等

(3) 調査方法

中国語による質問紙郵送

(4) 対象者...44世帯89件

所沢センター修了生（スクーリング生を含む）中、次のすべての条件に該当する者

定着地：自立研修センターのない県

センター退所後の年数：1年以上～5年未満

退所時年齢：16才以上～55才未満

但し非識字者をはじめアンケートの読み取りに困難のある者を除くとともに、入所当時健康上の理由および保育や介護で研修の対象外であった4名は参考として加えた。なお各世帯毎にアンケートを送付する際には、呼び寄せ家族用として1通多くアンケートを同封した。

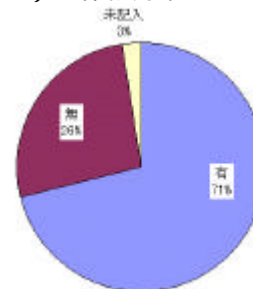
1-2. 調査結果

(1) 全体回収率：38件(42.7%) その他に8件呼び寄せ家族や調査対象外の家族から回答があった。

<年代別回収率>

年代(現在)	回答数 / 送付数
20歳代	11 / 26
30歳代	13 / 35
40歳代	7 / 18
50歳代	7 / 10

(2) 全体就労率



<年代別就労状況>

年代(現在)	有職(人数)	無職(人数)	未記入
20歳代	9	2(含む学生)	0
30歳代	12	1	0
40歳代	6	0	1
50歳代	0	6	1

50歳代の就労率を見ると回答者は全員無職である。20歳代～40歳代の回答者の多くは就労者である。なおアンケートは定着地に送付したが、二世世帯は定着後世帯分離して一世世帯と別居するケースが少なくない。中にはアンケートが一世宅でとまって二世宅までは届けられなかったケースがあるかもしれない。

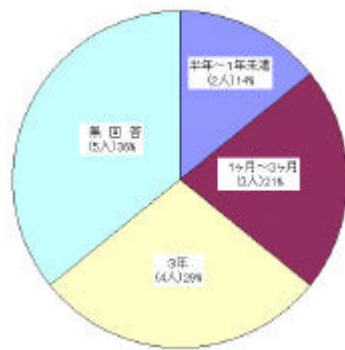
(3) 所沢センター退所後の日本語学習について

a. 学習歴の有無 有：31件 / 無：7件

有りと答えた31件中、日本語教室等の学習の場があった者は15件であり、他の16件は自学自習や自立指導員の家庭訪問による支援を受けている(複数回答)

b. 学習方法別の学習期間

<教室で(15名)の学習期間> <自立指導員による指導(14名)の学習期間>



c. 使用教材 以下 数字は順位

教室での使用教材(複数回答)	人数
無し	4
みんなの日本語	3
新日本語の基礎	2
生活日本語	2
中級日本語	1
中級から学ぶ日本語	1
上級で学ぶ日本語	1
日本語能力試験関係の本	1

自立指導員使用教材	人数
所沢センター教材「日本の生活とことば」	4
ひろこさんの楽しい日本語	1
無回答	9

自学自習時の使用教材(複数回答)	人数
所沢センター教材	11
生活日本語(文化庁出版)	4
辞書	2
単語帳	1
標準日本語(中国の出版物)	1
日本語中級	1
中日交流標準日本語中級(中国の出版物)	1
日語生活交際会話(中国の出版物)	1
新日本語の基礎	1
みんなの日本語	1
日本語能力試験関係の本	1
上級で学ぶ日本語	1
テレビで毎日学習	1

「自立指導員の家庭訪問による学習支援」は日本語教室等のない地域に定着した国費帰国者に対して学習機会を保障する公的な支援策である。今回のアンケートでは学習期間と使用教材について無回答が多いことからアンケートだけを頼りに支援の状況をつかむことはできない。一般的には生活支援も兼ねた訪問となる場合が多いと推測される。なお自学自習用教材として挙げられたテキスト類は当然ながら中国語解説付きが多い。

(4) 日本語困難度

会話困難度(1:困難はない 2:あまり困難はない 3:どちらとも言えない 4:少し困難 5:大変困難)

年数 困難度	1年～2年 未満(8名)	2年～3年未 満(10名)	3年～4年未 満(10名)	4年～5年未 満(10名)	計
1					0
2			1	3	4
3				2	2
4	6	2	4	5	17
5	2	7	2		11

未記入: 4名

読み書き困難度(1:困難はない 2:あまり困難はない 3:どちらとも言えない 4:少し困難 5:大変困難)

年数 困難度	1年～2年未 満(8名)	2年～3年 未満(10名)	3年～4年 未満(10名)	4年～5年未 満(10名)	計
1		1			1
2		1		3	4
3				1	1
4	8		6	4	18
5		7	1	2	10

未記入: 4名

所沢センター退所後2年以上3年未満のグループが、会話・読み書きともに困難度が高い。これは自立指導員の派遣回数が増える²一方、呼び寄せ家族や自身の生活上の変化(就職・転職・転居等)によって日本語の必要性が高まることの影響しているのではないだろうか。

(5)日本語学習ニーズ

a. どの自学自習用教材があったらいいと思うか。(複数回答)

(: あるといい、 : 特に必要 / 以下、合計値は 1点、 2点として計算)

項目			合計値
0. 特に無し	0	0	0
1. 生活場面の会話力向上	10	15	40
2. 文法知識の増強	8	11	30
3. 単語や表現文型の増強	11	7	25
4. 交流のための話題中心の会話	16	9	34
5. ニュース等の聞き取り	7	0	7
6. 敬語	14	6	26
7. 発音	10	10	30
8. 文の読みとりや作文	2	5	12
9. 平仮名・カタカナ	5	0	5
10. 漢字	12	4	20
11. 日本事情	9	4	17
12. 日中の文化差やその対処法紹介	5	6	17
13. その他	0	4	8

上記ニーズを滞在年数別に見る(合計値で比較)

年数 項目	1年～2年未 満(8名)	2年～3年 未満(10名)	3年～4年 未満(10名)	4年～5年 未満(10名)
0. 特に無し	0	0	0	0
1. 生活場面の会話力向上	12	13	9	6
2. 文法知識の増強	7	8	3	12
3. 単語や表現文型の増強	10	6	4	5
4. 交流のための話題中心の会話	6	11	10	7
5. ニュース等の聞き取り	0	1	1	5
6. 敬語	5	4	5	12
7. 発音	7	6	5	12
8. 文の読みとりや作文	2	0	3	7
9. 平仮名・カタカナ	0	3	2	0
10. 漢字	3	7	4	6
11. 日本事情	3	2	7	5
12. 日中の文化差やその対処法	2	0	5	10
13. その他	2	2	2	2

滞在年数4年未満までは「生活場面の会話力向上」ニーズが高い。2年以上4年未満では「交流のための話題をめぐる会話」ニーズが高くなる。この時期は自立指導員に依存する状況から徐々に離れて、近隣や職場で良好な人間関係を築きたいという願いが強まる時期であろうか。4年以上5年未満では、敬語・発音、文法知識へのニーズが高い。より正確で適切な日本語を使えるようになりたいという願いの現れであろう。

b. 会話ニーズ(複数回答)

項目			合計値
0. 特に無し	0		0
1. 商店・郵便局	6	2	10
2. 交通機関利用	8	1	10
3. 病院	11	8	27
4. 子どもの学校・幼稚園	5	11	27
5. 銀行(郵便局)の窓口	7	1	9
6. 電話	14	6	26
7. 役所・入管	10	3	16
8. 不動産	7	1	9
9. 職安・就職面接	7	5	17

10. 職場	10	7	24
11. 近隣交際	10	8	26
12. 緊急時	9	5	19
13. 就職・進学問題の相談	11	3	17
14. その他	1	0	1

上記会話ニーズを滞在年数別に見る（合計値で比較）

項目	年数			
	～2年 (8名)	～3年 (10名)	～4年 (10名)	～5年 (10名)
1. 商店・郵便局	0	7	0	0
2. 交通機関利用	0	8	0	0
3. 病院	10	6	4	5
4. 子どもの学校・幼稚園	11	10	2	4
5. 銀行（郵便局）の窓口	2	4	1	2
6. 電話	5	4	5	12
7. 役所・入管	7	3	1	5
8. 不動産	4	3	0	2
9. 職安・就職面接	4	5	3	5
10. 職場	13	5	3	3
11. 近隣交際	9	8	6	3
12. 緊急時	7	7	3	2
13. 就職・進学問題の相談	7	2	3	4
14. その他				

定着後1年以上2年未満のグループでは、「職場」での会話ニーズが高い。1年以上3年未満では、「子供の学校や幼稚園」でのニーズが高い。2年以上3年未満では「商店・郵便局」や「交通機関利用」などサバイバル場面でのニーズも高まる。これは行動範囲の広がりを反映しているのであろうか。「病院」場面での会話ニーズはどのグループにも共通してある。「電話」は滞在年数が長いグループでニーズが高まるようだ。

c. 読み書きニーズ（複数回答）（ : できるようになりたい : 特に学習したい）

項目			合計値
無し	0	0	0
小中高の漢字の読み書き	3	9	21
回覧板・学校や保育園の通知いろいろな広告等	4	9	22
新聞・雑誌の読み取り	4	4	12
役所・病院・銀行等の書類の読み書き	5	4	13

工作上必要な書類の読み書き	7	7	21
あいさつの手紙やはがきの読み書き	2	5	12
自動車教習所や職訓校等の授業の聞き取りや教科書の読み取り	4	6	16
資格取得試験問題の読み取りや記入	6	3	12
就職や進学に関する情報の読み取り・入学試験の論文	5	5	15
その他	0	0	0

上記読み書きニーズを滞在年数グループ別に見る（合計値で比較）

項目	年数			
	～2年 (8名)	～3年 (10名)	～4年 (10名)	～5年 (10名)
1. 小中高の漢字の読み書き	2	9	5	5
2. 回覧板・学校や保育園の通知いろいろな広告等	6	10	4	2
3. 新聞・雑誌の読み取り	6	1	1	4
4. 役所・病院・銀行等の書類の読み書き	2	8	2	1
5. 工作上必要な書類の読み書き	9	7	3	2
6. あいさつの手紙やはがきの読み書き	4	6	2	0
7. 自動車教習所や職訓校等の授業の聞き取りや教科書の読み取り	10	3	0	3
8. 資格取得試験問題の読み取りや記入	8	2	0	2
9. 就職や進学に関する情報の読み取り・入学試験の論文	9	1	2	3
10. その他				

1年以上2年未満のグループでは、「自動車教習所や職訓校等での授業の聞き取りや教科書の読み取り」ニーズが高い。運転免許がなければ就労が難しい地域もあることが反映されている。この時期は仕事や進学をめぐる問題が優先課題のようである。滞在2年以上では、どのグループも漢字の読み書きニーズが高くなる。

d. 学習目的（複数回答）

項目			合計値
日常生活上の困難解決	9	12	33
近隣・地域交際	13	4	21
生活レベルの向上	13	4	21
進学	1	0	1
情報入手	4	1	6
余暇娯楽生活	2	1	4
孫など家族とのコミュニケーション	5	0	5
その他	0	0	0

上記学習目的を滞在年数別に見る（複数回答）（合計値で比較）

年数 項目	～2年 (8名)	～3年 (10名)	～4年 (10名)	～5年 (10名)
日常生活上の困難解決	11	12	8	2
近隣・地域交際	5	8	6	2
生活レベルの向上	10	4	2	5
進学				1
情報入手	2	1		3
余暇娯楽生活		1	2	1
孫など家族とのコミュニケーション	1	3	1	0
その他				

定着後4年未満までは「日常生活上の困難解決」が最も重要な学習目的である。日常生活（行動達成）は広範にわたり、定着後4年目でも不便さは解消されていない。2年以上4年未満では「近隣地域交際」がこれに準じた目的となるようだ。1年以上2年未満のグループは全員20歳～30歳代（下表参照）であるため、生活レベルの向上も重要な学習目的となっている。

< 所沢センター退所後の年数別年代構成 >

年代	～2年	～3年	～4年	～5年	合計
20～30歳代	8	5	6	5	24
40歳代	0	2	1	4	7
50歳代	0	3	3	1	7

e. 必要な支援（複数回答）

項目			合計値
日本語教材の情報提供	3	13	29
地域の日本語教室・支援者の情報提供	6	7	20
教材について相談できる人	7	8	23
日本語について、質問できる隣人	6	14	34
日本語について、通信手段を使って質問できる人	3	4	11
会話の練習相手	8	9	26
サークル活動・地域の交流活動を紹介してくれる	6	4	14
学習や生活情報について帰国者同士情報交換できる	5	5	15
その他	0	1	2

項目	～2年 (8名)	～3年 (10名)	～4年 (10名)	～5年 (10名)
日本語教材の情報提供	10	8	6	5
地域の日本語教室・支援者の情報提供	10	4	3	3
教材について相談できる人	4	12	3	4
日本語について質問できる隣人	7	15	7	5
日本語について、通信手段を使って質問できる人	1	2	6	2
会話の練習相手	8	9	4	5
サークル活動・地域の交流活動を紹介してくれる	7	2	2	3
学習や生活情報について帰国者同士情報交換できる	1	4	2	8
その他	2	0	0	0

「自学自習を進める上でどんな支援が必要か」という問いに対しては、ニーズの高い順に「日本語について質問できる隣人」「日本語教材の情報提供」「会話の練習相手」と続く。帰国者は日常生活の中でさまざまな生活課題に直面し日本語を使う必要に迫られる。「子どものことで先生に尋ねたい事を連絡帳に書きたい。」とか、「職場の歓迎会で日本語で挨拶したい。」とか、「公営住宅の申し込みには書類に現在の家族の居住状況を記入しなければならない。」といった個別の課題である。「日本語について質問できる隣人」が望まれている背景にはそんな事情があるからであろう。帰国者仲間などで日本語力のある先輩が身近にいればよいが、そのような条件には恵まれない者も多い。「隣人」が日本人を指す場合、調査で知り得た範囲では日常的に気楽に質問できる関係を築けた例はあまり多くないようだ。理由は友人を作れるきっかけや環境がないためであったり、帰国者自身の学習ストラテジーの不足であったり、日常的に人に頼ることの心の負担であったりする。以前日常的に日本語の面で相談できる関係作りという観点から帰国者と支援者がファックスでやりとりする通信支援を試行した（山本/1998）対面支援ではないため入門・初級レベルの学習者では、相手が中国語不可の場合難しい面もあったようだが一定の成果をあげている。このような通信手段による学習支援が公的システムによるサービス提供の一環として試みられ、浸透させることができれば、生活の中の素材を学習材として自学自習を促進させることも可能だと考える。「日本語教材の情報提供」について、多くの地方では日本語教材を扱う店がないため、都市部に出ない限り自由に手にとって選択する機会は持てない。学習者が直接アクセスできる情報先あるいは母語による情報を発信するサービスが必要だと思う。また内容についても、選択のめ

やすくなるわかりやすい解説が提供できるとよい。

選択肢のうち「日本語について通信手段を使って質問できる人」と「サークル活動・地域の交流活動を紹介してくれる」は、これらが体験することによってしかその効果を実感できない側面があることから、多くの帰国者にとってイメージすることが難しかったかもしれない。

2. 教材モニターの実施

2-1. モニター募集の概要

試作版自学自習用教材「こんなとき会話シリーズ」³の教材モニターを募集（詳細は下表参照）し、使用後アンケート（資料1）を実施した。以下の表中、募集方法の ①では当センター発行のニュースレター「同声同気」⁴を情報媒体とした。読者は自立指導員や身元引受人等公的支援者の占める率が高く、今回の募集でも仲介者は身元引受人であるケースが大半で、要望は職業編に集中した。支援者のニーズの反映とも取れる。一方募集方法の ②で、学習者に直接通知したところ、交際編と職場編に希望が分散した。

対象者	募集内容	募集方法	応募状況	備考
前述の ニーズ調 査回答者 33名	・こんなとき会話 シリーズ(職場/ 交際/買い物)か ら1冊だけ選択 可 ・送料負担とアン ケートへの回答 が条件	本人宛郵送で通知	応募者：15名 (応募率39.5%) その他 修了生家族 間の口コミによる応 募者が、孤児世代3名 (「交際編」)「呼び 寄せ家族」2名(「職 場編」)	
一般の 帰国者 (含む呼 び寄せ)	・1回目はこんな とき会話シリー ズの職場編、2回 目は交際編。 ・送料負担とアン ケートへの回答 が条件	所沢センター発行の 支援者向けニュー ズレターでモニターの 紹介を依頼	こんなとき会話「職場 編」 応募者：12 名(うち3名はセン ター修了生) こんなとき会話「交 際編」 応募なし	は募集情報が直接学 習者に届くが、は支 援者を介してであるた め、必ずしも学習者の ニーズがそのまま反映 されるわけではない。

< ニーズ調査回答者 38 名中応募のあった
15名の年代と希望教材 >

	職場編	交際編	合計
20代	4	1	5
30代	2	3	5
40代	0	2	2
50代	0	3	3
計	6名	9名	15名

注5) 右表のb~zは学習者タイプの要素の
うち適性と入所時の日本語未習既習の別を
表す。b・c・de・f・gh・kl・m ...大人/左か
ら適性低 高。(mは既習者)
i j...青年/適性低め。z x n...青年/適性高め(n
は既習者)

2-2. モニターからのFB結果

2-2-1. 支援者の紹介で応募したグループ12名についての概況

(1) 11名(20代1名/30代6名/40代3名/不明1名)

来日後1年未満または1年1ヶ月~1年4ヶ月。センター修了生の2名を除き、呼び寄せ家族で、日本語の自己評価⁶も平均して15点満点中数点以下(入門~初級下)と低い。滞在年数が短く本書の想定するレベルではなかったが、職場への適応という切迫したニーズから応募した人が多いようだ。日本語の基礎を身につけていない(学習方法にも不慣れ)ため学習上の困難が大きいが比較的熱心である。ほとんどの人が家族等の支援者の助けを得て学習を継続している。身近な支援者のいないケースでは学習がうまくいっていない場合が多いようだ。ある支援者からも基礎を身につけるための初級テキストの問い合わせがあり、自学自習用としての教材開発が急がれる。

(2) 1名(50代、センター修了生、klタイプ⁷、来日9年目)

日本語自己評価は満点(初級上~)である。内容的には簡単だったようだが、より適切な表現力を目標に学習。比較的学習適性が高く、退所後も自学自習を継続してきた。現在仕事も安定し働きながら学習することが身につけている様子。

(3) その他

< ニーズ調査回答者とモニター応募者の
学習者タイプ⁵ >

ニーズ調査対象者	調査回答者	モニター応募
研対外者：4	2	1
b：1	1	
c：9	2	
de：4	1	
f：8	5	2
gh：5	2	
kl：14	8	3
m：5	3	2
i：18	5	1
j：4	1	1
z：12	5	2
x：2	1	1
n：3	2	2
計 89	38	15

教材の形態体裁については比較的好評。内容については、実生活ですぐ役立つという評価とともに、語彙を含めもっと中身を増やしてほしいの声がある。聞き取り練習やテープでの“ながら学習”は好評。聞き取り重視の傾向。上記(1)のある学習者の弁「聞き取れるようになってから話す練習をすれば、日本語の速度が速められる。」

2-2-2. ニーズ調査回答者・その他関係者(孤児世代・呼び寄せ)について
以下滞在年数別に代表的なケースをまとめる。学習者からのフィードバックの要旨に担当者の所見を添えたものである。

(1) 滞在1～2年グループ

“自学止む無し”派(A:20代女性、zタイプ、有職/B:20代女性、呼び寄せ、有職)データや文面から察するに2人とも学習適性は比較的高い。Aは所沢センターを経て定着地でも日本語教室で学んだ。Bは来日後自学自習で学ぶ。日本語の自己評価はAのほうが高い。二人とも就労しており、忙しいのでマイペースで学べる点で自学自習を評価する。実際自分の好きなスタイルで、体調や生活の状況に合わせてペースを調整しながら学んでいる様子。Aにとっての困難は実際に話す相手がいないこと。Bには日本人の友人(教会関係)があり、学んだ日本語を使ったり、わからない点を質問したりしている。このように就労しているからといって必ずしも気楽に話せる相手がいるわけではないようだ。一方Bは、文法の基礎知識がなく、文法面の理解は大変難しいと感じている。語彙量を増やししながら、日本人とたくさんコミュニケーションして会話を伸ばそうと考えている。一般的に、呼び寄せで系統的学習を経ていない人は、文法面についての不全感を引きずる傾向があるようだ。

自学中途挫折者(20代男性、iタイプ、有職)

アンケート回答なし。こんなとき会話職場編のモニターに応募したが、内容的に学習目標と一致していなかったようだ。「求職関係の会話教材はないか。」というようになった。後日のインタビューで学習動機は有利な転職であることが判明。その後学習は進まず、センター提供の「運転免許教材」のほうに関心が移った。他にインタビューしたijタイプ(青年、適性やや低)のケースと合わせても、男性は夜勤や三交替の仕事が多い。残業もある。学習目標と一致したものでなければ時間を捻出してまで取り組まないのではないか。

(2) 滞在2～3年グループ

自学肯定派(A:60代男性、klタイプ、無職)と自学止む無し派(B:60代男性、

ghタイプ、無職)

2人とも自分なりの学習方法・工夫を身につけている。特にAはマイペースで余裕をもって学んでおり、「困難は無い」と言う。年配者でも学習習慣が身についた人にとっては、学習に負担感がなく、むしろリタイア後の時間的余裕から生涯学習的に取り組める強みがあるようだ。B(ghタイプ)は家族を支援者として活用。自学に伴う困難としては、「日本語を試してみる機会がないので、どの程度できるようになったかわからない」点が挙げられている。リタイア後の社会参加や付き合いの機会が問題のようだ。Bは教室があれば活用したいであろう。またBからは「音声テープが速すぎる。年配者向けの配慮が必要」との指摘もあった。

自学懷疑派(A:30代男性、mタイプ、有職/B:30代女性、nタイプ、有職)

Aはセンターでは既習者クラスに在籍。日本語自己評価も高い。本教材を使った学習については「聞くことへの積極性が養われた」と評価しつつ、「自学自習が自分に適しているかどうかかわからない」という。「平均的に日本語能力を高めるのは難しい。また自分の弱点に本当にあった教材はなかなかない。」とも述べている。Aの妻であるBも既習者クラスに在籍した。教材が自分に合っているかどうかという点を含め懐疑的な意見を述べている。実生活で時に正確に表現できないため「逆の意味にとられてしまう」ことがあるという。やや聞き取りに重きを置く本教材は発話を重視する彼女のニーズから逸れていたのではないか。また「学んだ日本語を試しに使う機会がないので、どの程度できるようになったかわからない。」「自学教材を使った学習は適さない。日本語教室ならいろいろな練習方法があり、日本語習得が早い。」「自学では学習は中断しやすいが、教室なら続けやすい。」という。

(3) 滞在3～4年グループ

自学肯定派(50代女性、fタイプ、無職)

センター退所後もボランティア教室で2年半ほど学んだ。日本語自己評価は8点で、「会話は非常に困難」「読み書きは少し困難」というが、近所に中国好きの友人がおり親しく付き合っている関係から、最近コミュニケーション力の伸びを自覚している様子。「教室より自学自習が好き」と明言する。「この本なかなかいいですね。後は覚えるだけ。」「学習していてわからない所は友人に聞く」とも答えている。日常のコミュニケーションと自学自習を上手に絡み合わせているようだ。時間に余裕のある中で、人的リソースに恵まれ、辞書や教材なども使い慣れている。いくつかの好条件がそろった例だ。

(4) 滞在5～6年グループ

自学肯定派(20代女性、zタイプ、有職)

日本語教室や定時制高校を経て、会話はあまり困難はないが読み書きが少し困難。自己評価13点。本教材は、正確でより適切な日本語力を身につけるという目的で使用。自学自習は「都合のよい時間に学べる」とこと、「自分のニーズやレベルに合わせて学習できる」点がよいようだ。

“自学止む無し”派(50代男性、k1タイプ、無職)

センター退所後も1年以上日本語教室で学んだ。日本語自己評価は9点、会話も読み書きも少し困難。この2年間失業中。「日本語力と健康上の理由で再就職が難しい」との認識あり。「付近に日本語教室が無いので自学するよりない。」自学は「学んだ日本語を試しに使う機会がないので、どの程度できるようになったかわからない。」という。

判定困難(40代女性、k1タイプ、有職)

センター退所後8か月日本語教室で学んだ。日本語自己評価13点。懐疑的な意見の部分は、「学習の進捗について忙しい時は予定通りいかない。」「聞きたいことがあっても、先生が近くにいない時、電話や手紙で聞くのは難しい。」点である。肯定部分は「忙しいので暇を見て自由に学ぶのが好き。」「自分のペースに合わせて繰り返し復習できる。」ことである。内容は比較的やさしいと感じているのに効果については評価が低い。本人が発話力を伸ばしたいと考えているのに「身近な支援者はいない」とも言う。

以上、今回は教材の提供のみで通信手段を用いた側面支援(学習相談や会話の練習)は行っていない。またほとんどのケースはアンケート回答だけに基づくので、詳しい学習状況や学習者の自己評価の背景について把握できていない。そのような制約下での試行であり、一概に結論を導き出せないが、今回の会話教材を用いた自学自習では、おおよその傾向として次の点が言えるのではないか。

自学肯定意見

...一定の基礎力(日本語の基礎力、リソースの活用力)がある。実生活の中に運用機会もある。「暇なときに、自分のペースで学べる。」「自分のレベルやニーズに合ったものを選んで学びたい。」と考えている。

自学止む無し意見

...教室があれば活用したいが、時間的・空間的に無理だったり、必ずしも学びたい内容を扱っていないから自学自習を活用。孤児世代等閉じこもりがちで時間的余

裕のある場合は「運用練習の機会がほしい。」という人が多い。

自学懐疑意見

...「自学だと継続しにくい。」「教室のように多様な練習方法や支援者が必要。」等の意見がある。「自分の学習目標にあった教材が見つからない」また言語環境に恵まれない中で「発話力を高めたい」と望んでいるケースがある。

なお自学ニーズについて、モニターから個々に興味深い意見が得られた。(資料2)

2-2-3. その他、昨年度からのプロジェクト全体を通じての補足

(1) 学習者の学習条件や学習環境

インタビューしたi、jタイプ男性3人は夜勤や三交替勤務であった点は前述した。モニターへの電話連絡でも残業が多く夜間の連絡となることがしばしばであった。夜の教室であっても継続的に通うことの難しさの一端が伺える。夜間中学の見学の折も「主人は仕事が遅い。私はパートで5時に終わる」と答えた女性がおり、出席者は女性が比較的多い印象を受けた。

働いているからといって必ずしも言語環境に恵まれているわけではないようだ。リタイアした人や育児中の女性は閉じこもりがちで自学教材による学習のみでは「学んだことを試す機会がない」場合が多い。

(2) 生活の変化に付随して学習も影響

忙しいときは計画通り学習が進まないという意見が多いが、日常的な変化は当然としても、例えば若い世代は雇用状況が流動的である。よりよい労働条件を求めて潜在的な転職ニーズをもった人が多いからであろう。プロジェクト期間中も関係者数人が実際に転職、または転職を検討していた。生活の変化によって、学習動機が薄れたり、物理的に学習できなくなることもある。学習を長いスパンで捉えるより、生活状況の変化によって中断や再開、目標の変更もあると考えていたほうがよいように思う。

3. 自学自習を支援する方策

3-1. 自学自習用教材の工夫

自学自習を積極的・積極的に希望する人、他の手段がないためこれを選択する人を含め、自学自習を希望する人を支援する方策として、教材の開発・提供は大きな課題であるが、一般の教材と比べてどのような工夫が求められるのだろうか。ここではニーズの緊急性という点から、入門～初級レベルの学習者を念頭に、主に会話スキルを高めることを目標にした自学自習用教材作成上のポイントとこれを実現するための具体的な方策を挙

げる（以下参照）自学自習用として一般に必要なと思われる特色の他、学習ストラテジー（資料3）の意識化という観点からいくつかの方策を盛り込んだ。

主な対象者：

- 1) 定着促進センター等の制度的日本語教育を受ける機会のない呼び寄せ家族2世3世
- 2) 学習適性...中学校卒業程度以上（外国語学習歴無しを含む）

1) 外国語学習に不慣れな人でも、自分で学習を進めていける

手間が省けて使いやすい

- a. ルビを付ける
- b. 語彙の中国語訳をつける

理解や整理がしやすい

- a. 平易で簡潔な中国語による解説を加える
- b. （各課の）構成やレイアウトをシンプルでわかりやすくする
- c. 練習をスモールステップ化する
- d. 練習問題には自己チェック用の解答を載せる
- e. 整理・定着化を図るために適宜「まとめや復習」を入れる

学習ストラテジーが徐々に身につく

- a. 語彙や表現の記憶の仕方に気づいたり、運用力を高めたりできるように色々な練習方法を取り入れる（記憶のストラテジー、聞き取りのストラテジー等）
- b. 主体的に語彙を身につけるよう聞き返したり、意味を尋ねたりする表現を盛り込む
- c. 学習目的によっては、辞書引きに慣れるような問題を盛り込む

語彙や表現の意味や用法の理解が進む

- a. 共通の表現を使った文例を多く示すことによって、規則性や機能に気づかせる
- b. 必要な箇所では、理解を助けるカット・イラストなどの視覚的情報を加える
- c. 付帯する音声テープの会話部分では演劇的表現（感情表現）を用いる

2) 学習条件や学習環境に恵まれない人でも学習を進めていける

生活の中の限られた時間を縫って学べる

- a. 分量や形態がコンパクトで持ち運びやすいよう心がける
- b. 付帯テープがある場合はテープだけでも「ながら学習」できるものにする

c. 一回の学習が短時間に行えて、区切りがつけやすい
全体の学習時間や学習ペースがつかみやすい。（学習ペースの調整や学習課題の見直しが容易である）

- a. 必要な所を選んで学べるモジュールの発想を取り入れる
- b. 分冊にして一冊終わる毎に次の学習課題を再検討できるようにする（学習の開始や中断、再スタートが比較的柔軟に行える）

3) 学習動機や学習意欲が高まる

教材の対象者とねらいがわかりやすい

- a. 教材の日本語レベルやどんな力がつくかをわかりやすく、簡潔に記述する
- b. 全体の構成（目次）をわかりやすく示す

日常生活の中で役立つという期待感が持てる

- a. 帰国者の生活上の問題解決により役立つ語彙・表現を盛り込む
- b. 言葉の背景になっている社会文化的知識も加える

周囲の人とのコミュニケーションに積極的になれる

- a. 自分や家族の自己紹介的課題にはじまって、自己を表現したり、自文化を紹介したりできる語彙・表現を盛り込む
- b. 周囲の人とのコミュニケーションが活発となるような話題を盛り込む（周囲の人を活用しやすいような問題や課題を盛り込む）

（支援者がいる場合）不慣れな支援者でも学習支援が可能である

日本語指導の知識や経験がなくても支援できる

- a. いっしょに会話練習できるような問題を付加する
- b. 必要があれば支援者マニュアル（含む：ビデオ）を別途つける

中国語ができなくても支援できる

- a. 文例・解説等は日中対訳にする
- b. 支援者がさらに解説する必要がないように、解説部分はわかりやすく且つ十分なものにする

3-2. 側面支援について

遠隔学習支援の立場から自学自習を支援する方策としては、教材提供以外に一般的に次のような内容が考えられる。方法は通信による場合とスクーリングであるが、前者については下表の例の他、近い将来電子メールも加わるものと考える。

内 容		通信手段の例
1. 学習相談	教材選択に関する相談	電話 / 郵便
	学習調整（目標・方法・ペース等）に関する相談	電話 / 郵便（FAX）
	評価	電話 / 郵便（FAX）
	その他情報（人的・社会的リソース）	電話 / 郵便（FAX）
2. 指導	課題作成 回答への添削	郵便（FAX）
	学習内容に関する質問への対応	電話 / 郵便（FAX）
	各種練習の相手	電話

支援の密度に関しては、次のa bが考えられる。学習者が主に自身の生活状況（学習条件）や自己学習能力とのからみから選択することが望ましい。

a. 学習条件がよい場合 教材提供 + 伴走型支援

b. 学習条件が厳しい場合 教材提供 + （希望に応じて）随時支援

また特定の教材を介した支援のみならず、日常生活の中での学びを促進するという観点から、学習者が生活の中でわからないことがあった時、質問に応じたり、添削したりする通信サービスも試みる価値があるだろう。

4. 最後に

今後も学習者のニーズ把握に努めながら、自学自習用教材のメニュー化を試みたい。また3-1にまとめた自学自習教材のポイントと方策の有効性を、今後どのように確認するのかという課題も残っている。教材の種類に関しては、学習者や支援者からビデオ教材の要望も出されている。今市場は一歩進んでマルチメディア教材や双方行性の学習方法などが宣伝される時代に入った。パソコン、携帯電話等通信手段の進化も加速している。このような背景の中で、日本語を第二言語として学ぶ人たち、学習に不慣れな人、生活に疲れた人が学習の重圧を軽減し楽しく学べる教材、そんな教材の試作にも取り組んでみたい。

<注>

1) 全国15ヶ所（2001年4月時点）にある帰国者のための公的日本語研修機関。国費帰国者は定着後ここで8ヶ月研修を受ける。

- 2) 制度上では自立指導員の派遣回数は定着後1年目は月7日（最大10日）、2年目は月1日（最大6日）、3年目は月1回（原則として生活保護受給世帯に限る）とされている。
- 3) 前年度国研プロジェクトにおいて学習者ニーズに基づき開発試用した教材「こんなとき会話シリーズ」で、「バス・道聞き編」「買い物編」「職場編」「交際編」に分かれる。
- 4) 1994年創刊準備号を発行。1995年1月創刊。現在の送付部数2340部。帰国者に関わる人の情報媒体としては最大かつ全国的なものである。
- 6) 日本語自己評価基準「日本語を使ってできること15項目」は、支援者として対象者の学習レディネスを把握するために、対象者の自己評価用として4技能の項目を設定しそれぞれ下位項目を立てたもの。日本語力の項目によって個人の能力にはばらつきがあるはずだが、レベルが大まかに掴めればよしとした。

<資料>

2) 「自学自習用教材について教材モニターからの意見」一部抜粋（原文は中国語）

30歳代女性（呼び寄せ / 来日1年3ヶ月 / 広島県）

私はもっと多くの日本語を勉強したいと思います。来日後の時間が短いので、生活習慣や生活方式であまり理解できないことがあります。だから日本人の生活習慣や生活方式を理解できるような知識の本がほしいと思います。

30歳代男性（呼び寄せ / 来日5ヶ月 / 東京都）

日本語教材を私はすでに何冊か見ました。ただ文法だけは見てもわかりませんでした。理解しやすい文法書が必要だと思います。

20歳代女性（呼び寄せ / 来日10ヶ月 / 東京都）

この教材を受け取ってもう学習しました。私は暇なときに学ぶだけです。学習時間は少ないです。この教材は仕事前と仕事の後に用いる程度です。私はいつ日本人の話が全部聞き取れ、話せるようになるのかと思います。21歳の私が来日して、まるで生まれたばかりの赤ん坊のように話せず0から始めなければなりません。このスタートの地に立って一冊の学習の進む教材を求めています。

39歳男性（呼び寄せ / 来日1年2ヶ月 / 熊本県）

日常実用会話、特によく使われる方言（例えば熊本弁）の教材が一冊ほしいです。

33歳女性（呼び寄せ / 来日約1年 / 山梨県）

日本語は見てわかりますが、自分で作文することはできません。日本語の作文や文法がわからないからです。小学校や中学・高校で学ぶ漢字の読み書きが大切です。華僑は「聞く、話す、書く」この3つができればいいです。聴解力もいつも練習する必要があります。話す方では、十分な単語量があってこそ表現できます。書く方では、日本語の文法やもっと多くの敬語がわからなければならぬと思います。「聞く、話す、書く」この三つの方面は段階を追って難しくなります。私の意見ですが、日本語教材は、この三つの方面から着手するといいたいと思います。そうすれば順を追って徐々に私たちの日本語レベルをあげることができます。

中文テレビ局784の毎朝の日本語講座は場面会話や解説もあって、とてもいいです。でも朝7:10~8:00の時間帯だけ。1日2回あればいいのにとおもいます。夜7:30~8:00の講座があれば、昼間働いている人も学べます。自学では、教材を読む時、いつも自分の発音が正しくないと感じます。ビデオを提供してくれればもっといいと思います。

40歳代男性（修了生 / 所沢センター退所後約1年 / 岩手県）

今ある自学教材の基礎の部分の内容を豊富にして更に似たような教材を提供してほしいです。仕事に参加してからことばの重要性を痛切に感じています。子どもの先生との話で、子供の学校の様子がわかるようになりたいです。職安で自分の長所を相手にわかってもらえるよう説明できるといいと思います。自動車運転免許がほしいですが、日本語の基礎が低く問題文を読んでも分かりません。

56歳男性（修了生 / 所沢センター退所後9年3ヶ月 / 東京都）

日本語学習は自分の努力次第です。職訓校に入って一生懸命勉強して仕事に関する資格（空調設備関係）も取りました。でも会話はまだまだです。簡単な会話ならOKです。でもより深い会話ができません。音声や映像などを通して会話力を高める必要があると思います。2~3本の映画のビデオテープとそのシナリオが書いてあるようなものがほしいです。

3) 学習ストラテジー

帰国者にとってはとりわけ次のストラテジーが重要になると思われる。

学習目標の認識

一般に学習目標が明確であるほど、自学自習は促進される。成人帰国者の場合、学業を本業とするのではなく、生活者としての立場が優先されることから、学習動機は往々にして生活課題と密接に結びついていると思われる。また学習者自身が学習目標を自覚していることが望ましいが、教材によって動機や意欲が高まることもあるだろう。

基本的な学習技能（記憶・練習方法・辞書引き等）

外国語学習体験のない人も多く、基本的な学習技能の習得は重要課題である。

人的リソースの活用力

学習の場のあるなしに関わらず、日本語学習の相手として周囲の人を積極的に活用できれば学習は促進される。

学習情報の収集（教材や支援者情報）

情報の収集については、帰国者には不慣れな人が多い上、言語のハンディもある。日本語教材を扱う書店は都市部に点在するが、地方においては直接目にする機会は少ない。学習の場に通っていても得られる情報は限られる。モニターの反響からも、情報の過疎地に住んで、口コミ情報を頼っている人が多いように見える。

適切な教材や学習方法・ペースの選択

とりわけ働きながら学ぶ人は、生活と折り合いをつけながら、学習方法やペースを選択する必要がある。

学習条件や学習環境の調整

前者は生活の中で学習時間を作り出す工夫や、後者はリソースの豊かな言語環境に身を置くための方策などが考えられる。

自己評価力

学習の途上と終了段階で自己評価し、達成度を確認した上、学習過程を調整したり、以後の学習のための見直しを行なうことは重要だが、学習目標と生活課題が一致している場合、学習の結果として資格試験に合格するとか、生活行動ができるようになるなど、達成度を実感できるという意味で評価が内在化できる。